

# 就任のあいさつ



町長 勝也 西大

このたび、4月23日付けをもちまして、黒潮町長に就任させていただきました。

皆さまもご承知のとおり、地域経済は落ち込み、各種産業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。また、日々不安の中で暮らしのお年寄りの方々への対応は待たなれず。この厳しさを乗り越えるためには、皆さまの知恵と力をお借りしなくてはなりません。ずっと訴えてまいりましたとおり、住民の声に真摯に耳を傾け、ともに協力し、総合力でまちづくりをしていくことを基本に考えています。人と自然のすばらしいこの黒潮町をもっと元気に、そして誇りを持てるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、皆さまのご鞭撻と温かいご協力を賜りますようお願いいたします。

町民の皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



副町長 田植

このたび、5月17日付けをもちまして、はからずも黒潮町副町長を拝命いたしました。もとより微力ではございますが、黒潮町伸展のため職責に全力を尽くし、最善の努力をいたしたいと決意を新たにしているところであります。同時に、黒潮町も合併して4年が経過し、副町長も二人制から一人制へと移行したことから、責任の重さも痛感しているところであります。

今日、黒潮町を取り巻く経済環境は厳しいものがありますが、これまで培ってきた行政経験を活かし、職員と一丸になって、黒潮町の発展とともに町民の皆さんが住んでよかつた実感で、明るいまちづくりのために、誠心誠意努力してまいりたいと考えています。今後とも、皆さまの温かいご支援とご指導をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

# まちの「でびゅう」

## 給食に「鰹カツ」デビュー

黒潮町では、県の産業振興推進総合支援事業を活用し、まちの特産品のひとつであるカツオを主体に、更なる販路拡大に向け、取り組みが行われています。その中で昨年生まれたカツオ新商品のひとつ、鰹カツが5月13日の学校給食に登場しました。

「カツオめしやカツオの角煮は人気メニューのひとつですが、カツオは気に入ってくれるか、反応が楽しみ」と給食センターの職員は試食に余念がありません。



中央のお皿が鰹カツです。

給食の準備が進む教室には、新メニューを取材しようとした皆さんの報道関係者が集まり

ました。カメラを向けられ、ものものしい雰囲気にも包まれたこの日の献立は、えんどうごはん、野菜のマヨネーズあえ、にら玉スープ、牛乳、そして鰹カツです。

「いただきます」の号令とともに真っ先に箸を付けた児童は「カツオの味がしておいしい。給食に出たらまた食べたい」とインタビューに答えていました。「毎日、給食に出して！」という意見もあり評判は上々でした。

コスト面など検討課題はあるものの、今後もメニューに入れていきたいとのこと。佐賀のカツオが一番おいしい!との声も。



佐賀のカツオが一番おいしい!との声も。

鰹カツは、タタキ製造の際に出る端材や冷凍時に変形した規格外商品を有効利用しよ

うと黒潮町商工会が企画、(株)明神食品に委託し開発されたもので、給食に出されるのはこれが初めて。7ミリにカットされた節にバター粉と呼ばれる粉とパン粉をまぶし、油で揚げて作られます。塩、コシヨーでかるく味付けされていますのでカツオ本来の味が楽しめます。また、卵は使っておらず、アレルギーのある方にも食べていただけるそうです。

現在は通信販売でのみ取り扱っていますが、関東を中心に数件の商談が決定していることもあり、新しい黒潮の味として広まることを期待されています。

新商品の開発をはじめ、日戻りカツオのネームブランド向上と定着化、ワラ焼きタタキの外部宣伝、各種イベントの強化など、カツオを活かした取り組みは今後も続きます。

○商品に関するお問い合わせ  
黒潮町商工会佐賀支所  
☎ 55-2286  
(株)明神水産  
☎ 55-2800



## 入野小学校 砂像づくりにチャレンジ



4月23日、入野小学校の恒例行事『なかよしデー』で、入野の浜に遠足に行きました。午前中はビーチフラッグや綱引きなどのゲームで楽しみ、おいしいお弁当を食べた後はこの日のメイン行事、砂像づくりコンテストです。

1年生から6年生までのなかよしグループで構成する「なかよし班」に分かれての作品づくり。高学年のみんなはもう慣れたものです。

先生の合図で思い思いの場所に駆け出すと、事前にアイデアを出し合って決めたテーマに向かって、砂を盛り始めます。

「これ何に見える?」「クジラじゃないでイルカで!」。



4月も下旬だというのに肌寒い風が吹くなか、子どもたちは裸足に腕まくりで作品づくりに夢中です。

1時間も経たないうちに大きなカメラやかわいいお城、今にも泳ぎだしそうなジンベエザメ：朝方まで降っていた雨まじりの灰色の砂に、次々といのちが吹き込まれていきます。

カメラを向けると、力作の前に自信満々の笑顔を見せてくれました。

## 「大町さん」の祠を塗り替 えました。

佐賀の漁師町のひとつ、明神地区に一坪ほどの古い祠があります。この地区には、漁師たちを守るため自らを犠牲にした「大町九兵衛」という庄屋のお話が今に伝えられており、地元の漁師さんたちには「大町さん」と慕われています。

その「大町さん」が祀られている祠が潮風や雨風にさらされ色あせていたことから、夏祭りまでにはと、お色直しがされました。神殿にこびり付いたよごれにはやすりが掛けられ、朱色の鳥居は白い外壁によく映えます。

神主さんの神事が終わると、カツオのタタキやお赤飯などの料理を囲み宴のはじまりです。「大町さんで、寄っていかんかえ」道行く人に声を掛けると「忙しいがよ」と言いながらも一人二人と杯を手に取ります。立ち寄った奥さんは、子どものころ祠のそばで撮った白黒の写真を眺めながら、「大町さん」が今もなお漁師の生活とともにあることを話してくれました。

漁が少なければもうけは無

いし燃料代もバカにならない、それでも漁に出なければならぬ。常に死と隣あわせの危険な航海を「大町さん」はずっと見守ってきました。

カツオの町を陰で支える、もう一人の漁師です。



「明日は川でもカツオが釣れるぞ!」漁師たちの士気は自然と高まります。

## 王迎団地 子どもの日だよ全員集合

4月29日、子どもの日を前に、ひと足早くイベントが行われました。子どもたちや保護者20名ほどが集会所に集まり、クッキー作りや絵本の読み聞かせなどで端午の節句を祝いました。



集会所に入ると、まず天井から吊るされた50〜60匹の小さな鯉のぼりがお出迎え。行儀よく並んだ子どもたちは、新聞紙で作ったかぶとをかぶり絵本に夢中です。

団地内の子どもたちを対象にした小さな手作りイベントですが、あたたかい雰囲気包まれた午後のひとときを参加者たちは楽しんでいました。





### イベントも~らくGW編

強風とともにやってきた今年のゴールデンウィーク。仕事の方もおられたと思いますが、皆さまはどのように過ごされましたでしょうか。連休中、町内で開催されたイベントを網羅してご紹介します。

カツオや入野の浜など、黒潮町の自然を活かした催しで訪れた方々も満足いただけたと思います。子どもからお年寄りの方まで、たくさんの笑顔と「ヤバイくらいおいしい!」「来年もまた来たい!」との感想をいただきました。期間中は汗ばむほどの快晴続きで、ズボンやスネまでまわって水遊びをする子どもたちの笑顔が印象的でした。



### 第25回大方シーサイド はだしマラソン全国大会

3日(入野の浜)  
4kmにもおよぶ砂浜を「はだしのランナー」たちが駆け抜けました。親子ペアの部、夫婦ペアの部、個人の部に735人が参加。思い思いのペースで潮風と砂の感触を楽しんでいました。「しんどかったけど気持ちよかった」県外からお越しの参加者はゴール後、すがすがしい笑顔で答えてくれました。



### 2010カツオと鯉のぼり川渡しフェスティバル

3日(坂折地区/伊与木川河川堤防)  
4月24日早朝から同地区の有志、約15人がかりで設置した鯉のぼり約120匹。その先頭を勇壮に泳ぐのは15匹のカツオのぼりです。すっかり恒例行事となったこの川渡しは、カツオの町である黒潮町を全国にアピールしようと2001年から始まりました。地元の子供たちはもちろん町外から来る観光客にも大人気で、国道56号を走る車内からも見ることができます。この期間中最もにぎわった3日の「カツオと鯉のぼりフェスティバル」。カツオのタタキや大方産の黒蜜を使ったかき氷などの出店のほか、紙の鯉のぼりプレゼントや風船のパフォーマンスもあり、家族連れで訪れた方々は大喜びでした。



### 第22回Tシャツアート展

1日~5日(入野の浜/砂浜美術館)  
「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」自慢の美術館に今年も1341枚のTシャツが集まりました。天気が心配されましたが、期間中は晴天続きで来場者だけでなくスタッフたちも喜ばせてくれました。強風に飛ばされそうなTシャツ、柔らかな潮風にひらひらとたなびくTシャツ、夕暮れには砂になかよく並ぶ影。砂浜美術館は時間とともに次々とその表情を変え、帰るタイミングを失います。絶え間ない波の音が一層演出を引き立ててくれました。皆さん、ひと足早い夏を満喫している様子でしたよ。Tシャツたちは、7月にモンゴルの草原でも展示されます。

### 初夏のぶらぶら、しませんか

3日~5日(海の王迎駅~入野の浜)  
JR特急「南風1号」がこの期間だけ海の王迎駅に停車、美しい海岸線を楽しみながらTシャツアート展会場めざしてぶらぶら歩きました。ゴールするころには、拾った貝殻で両手はいっぱいです。

### 2010.趣味人集合!

4日(土佐西南大規模公園内)  
公園内の施設、広場、空き地に色々な趣味を持った人たちが集まりました。各拠点では美演を見たり体験できるコーナーもあり、訪れた方々の歓声があがっていました。

### シーサイドビーサン飛ばし大会

5日(入野の浜)  
子どもの部、大人の部それぞれに分かれて競われたこの大会は、ビーサン協会の公式ルールにのっとり行われるもので、コート作りや距離までビーサンを用いて計測するというユニークなイベントです。中には後ろに飛ばしてしまう参加者もいて、笑い声が耐えませんでした。